

## 岡山県医療対策協議会 平成21年度地域医療対策部会の概要

- 日 時：平成22年2月4日（木）15:30～16:00 ○場所：岡山済生会総合病院会議室  
○出席者等：別紙のとおり（へき地支援会議との合同会議）

### 【医師数について】

- ・2年ごとに行われている医師数の調査において、平成20年の本県の医師数は平成18年に較べて約3%増えているが、年齢別にどうなっているかといった分析も必要である。
- ・単に医師数を比較するだけではなく、高齢化率などを加味してみることも必要である。

### 【地域医療再生計画等について】

- ・地域医療再生計画は、平成22年度～平成25年度までが期間とされているが、必要な事業については、平成26年度以降も引き続き実施していくよう、検討していく必要がある。
- ・一般病床、療養病床の基準病床数は実態に合っていないのではないか。県北では、現実に必要な病床が不足しており、現状に即した見直しを検討する必要があると思う。
- ・県北は、高齢者比率が高くなっており、医療だけではなく、福祉の面からも早急な対策が必要である。
- ・特別養護老人ホームにも、待機待ちの高齢者が増えている。介護施設の充実にも取り組む必要がある。
- ・医療崩壊という言葉がよく使われているが、現場からみれば、それ以上の社会崩壊がおこっているということを踏まえて、対策を講じていく必要があるのではないか。例えば、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦などの場合、現実問題として退院したら暮らしていけない状況が広まっている。
- ・岡山大学の地域枠学生が夏に地域医療の実習を行ったことは有意義なことである。自治医科大学においては、奨学金を返還する者が約3%いる。そうならないためにも、これからも現場体験を行っていくことが重要である。地域枠学生が、心から地域医療に携わりたいと思えるような魅力のある教育体制の充実が必要であり、大学にその旨を伝えていく必要がある。
- ・地域枠学生等の教育に当たっては、地域で働いたことのある指導医の存在が不可欠である。経験がなければ、学生を感化できないのではないか。
- ・新見地区では、救急体制の強化のため、病院の建て替え計画がある。市も支援していく方針と聞いており、今後、地域全体の医療提供体制の充実につながるよう願っている。